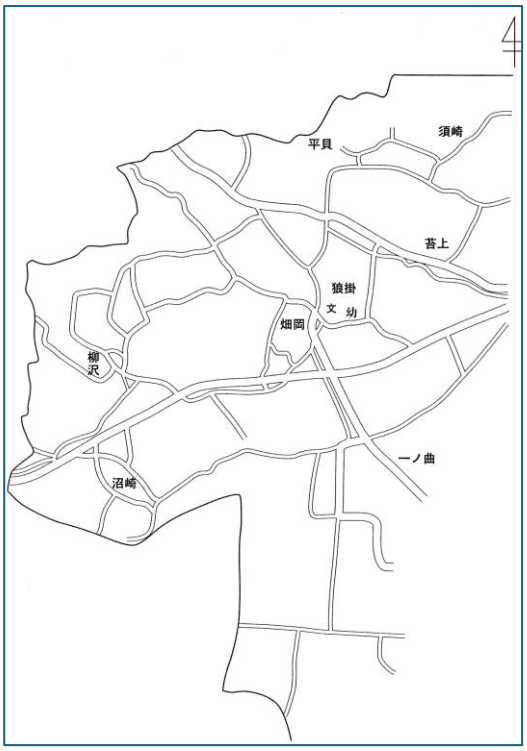
学区及び学校の概要



（１）　本校は、東西に広がる登米市南方町の西部に位置し、瀬峰－佐沼を結ぶバス路線と田尻・石巻に向かう内陸線が交差する交通の要所に位置する。交通量も多く、登下校時は交通事故防止の配慮を欠かせない。

学区の北西部は丘陵になっていて、中央部から南東部にかけては平坦地で耕土が広がっている。米作を中心とした兼業農家が多く、ほとんどの保護者は会社等に勤務している。

（２）地域住民は郷土に対する愛着や教育に対する関心が強く、学校に対しても協力的である。伝統ある「畑岡神楽」や「南方音頭」の指導、なかよし遠足や学校行事の見守り支援等、学校と地域の連携を図り、コミュニティ・スクールとして、地域のつながりを大切にした教育活動を展開している。

（３）学校周辺には総合運動場、西郷公民館、簡易郵便局、消防署（西出張所）等の公共施設も多く、コミュニティ活動が盛んである。これらの施設は、教科学習、学校行事、総合的な学習の時間等で利用することも多く、施設の職員とのつながりも深い。

（４）本校は、明治２５年９月２５日に独立校「西郷尋常小学校」となり、９月２５日を開校記念日としている。昭和７年に現在の敷地に移転した。

昭和６３年度に「福祉体験学習実践校」、平成４年度に「環境教育・愛鳥モデル校」として指定されて以来、挨拶運動や縦割り活動、環境教育等に取り組んできた。また、平成１１年度に「心をはぐくむ教育活動推進校」の指定を受け、縦割り活動がより充実し、その成果が見られるようになった。

平成１３年度には、「ＭＡＰ活動推進校」の指定を受け、他を思いやる心と明るく落ち着いた生活態度を培ってきた。

平成１８・１９年度の２年間、愛鳥モデル推進校として野生生物保護活動に取り組んできた。平成２２年５月に第６４回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」で文部科学大臣奨励賞を受賞。平成２４年度日本善行会より善行表彰（自然愛護）を受けた。

平成２０年度は、県教委より「学力向上サポートプログラム事業」の指定を受け、算数の指導に取り組んできた。平成２３・２４年度は登米市教育委員会より「幼・保・小推進事業の先導的実践校」の指定を受け、幼児教育と小学校教育の連携について実践的研究を推進し、公開研究会を開催した。

平成２６年度及び平成２９年度にも、県教委より「学力向上サポートプログラム事業」の指定を受け、校内研究で明らかになった課題を受け、算数科の学習指導に取り組んできた。平成３０年度は「登米市業務改善加速事業」の指定を受け、児童の学力向上を目指して３度の校内研修会を行った。

令和元年度には、コミュニティ・スクールとしての活動が始まった。また、「中谷医工計測技術振興財団」「ちゅうでん教育振興財団」からの助成を受け、総合的な学習の時間を中心に地域学習の充実を図った。

令和３年度から、GIGA スクール構想により「一人一台タブレット端末」が導入され、ICT 機器を用いた学習が活発化した。

令和５年度には、「開校１５０周年記念朝会を行い、伝統ある学校のこれまでの歩みを全校児童とともに振り返る機会となった。

令和６年度、県教育委員会主催の「Web 縄跳び大会」県１位、「Web マラソン大会」県１位を受賞するなど、体力向上にも努めている。